

# 職人の知恵と最新の技術で時代を継承 古今の技術を併せ持った 建築家集団を目指す

郷建設

うめナビ vol.4-11

郷建設(目黒区祐天寺、豊中邦嗣社長、03・3713・7610)

は、昭和18年創業、主に一般建築工事、歴史的建造物の修理・復元、建築設備工事を業としている。創業時は大工棟梁として主に数奇屋建築を手掛けてきたが、現在は低高層ビル、マンション、店舗、学校、工場等、時代の最先端を行く工事も手掛ける。そうした中でも同社は、ベースとなる木工事の技術を守り続けている。

同社は数奇屋大工としての技術を伝承するため、歴史的建造物の修復・復元・復元新築を数多く手掛けている。「棟梁としての技術、志を維持するとともに、近代建築の分野に棟梁が携わる姿勢を守っていききたい」と、豊中社長は考えている。それ故、材木の調達には材木屋任せではなく、日本全国に足を運び、実際に丸太や立木の状態から選別を行い、用材を選定するこだわりようだ。また、復元技術の一つであるタイルの復元では、100年前と同じ焼きあがりにはすることは

不可能だったが、同社は木材を古色仕上する技術をタイルに応用することに成功した。こうした高い技術は、INAX常滑工場にも提供され、阪神淡路大震災で被害を受けた神戸北野異人館の復元に役立ったという。

東大寺文化センター新築の際は、木工事図面作成に全面的に協力。使用木材は、防腐・防虫・防蟻・防割の性能を持つ、200年使用できる処理材木として、日本不燃木材会社と開発協力したものだ。さらに旧浜離宮庭園「松の茶屋」復元整備の際は、完成当時、材料と工法を忠実に再現したものととして新聞で紹介され、大きな話題となった。

建築設備工事の分野においては、床暖房の開発に取組み、床暖房はエネルギー費が高いという欠点を克服、ドイツメーカー2社の協力のものと、安くて快適なシステムを日本仕様に開発した。熱源は電気だが、今後の電気料金の値上げを見込んで、ガスと比較してコストは1/2~1/4と安く、熱源ポ



「棟梁としての志を維持し、近代建築にも携わっていく」と豊中社長(中央)と奥様(左)、専務(右)



復元整備に携わった旧浜離宮庭園「松の茶屋」

イラーの維持費も不要なため、お客様から好評だ。  
同社には、これからの古今の技術で人々の快適な暮らしづくりと日本の歴史・伝統の維持、継承をめざすことが期待される。